

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2170102848		
法人名	有限会社 安寿		
事業所名	グループホーム花咲小町(ユニット名:小町)		
所在地	岐阜県岐阜市太郎丸諏訪174番地		
自己評価作成日	平成22年10月12日	評価結果市町村受理日	平成22年12月27日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://kouhyou.winc.or.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=2170102848&SCD=320
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ぎふ福祉サービス利用者センター ぴーすけっと
所在地	岐阜県各務原市三井北町3丁目7番地 尾関ビル
訪問調査日	平成22年10月27日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

グループホーム花咲小町の基本理念である「自然の恵みを受けてありのままに」の精神の意味とする、新鮮な空気・太陽の光・暖かさ・清潔さ・静かさを適度に保ち、食事を適切に管理することにより、人間の持つ生命力を引き出し、心身の活性化につなげることを遵守すること。そして、利用者のありのままを受け入れ、最期まで生き抜くことを援助し、安らかな死を迎えられるように職員一同誠意を持ってケアに努めています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

開設7年目を迎えるこのホームは、看護師である管理者がホームの近所に住んでおり、24時間体制で利用者の体調管理を行っている。管理者夫婦の考えにより、看取りを積極的に行い、既に9人を見送った実績がある。職員は、管理者の姿を手本とし、看取りを通して、一つひとつ、体験を重ね、現在では全員で看取りまでの支援ができるよう、医療面・介護面での質も向上している。ホームの夏祭りは、流しそうめんやゲームなどで楽しみ、本人・家族に交じって近隣の住民や職員の子供達も加わり、総勢70人程が集い、普段から地域交流が行われていることの証となる賑やかな行事となっている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を 掴んでいる (参考項目:23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求 めていることをよく聴いており、信頼関係ができて いる (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場 がある (参考項目:18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地 域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らして いる (参考項目:38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関 係者とのつながりが広がり深まり、事業所の理 解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生き とした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	66	職員は、生き生きと働いている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出か けている (参考項目:49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむ ね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で 不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサー ビスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた 柔軟な支援により、安心して暮らして いる (参考項目:28)		

自己評価および外部評価票(小町)

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「自然の恵みを受けてありのままに」という基本理念と、それが示す意味を管理者とスタッフ全員が共有し、実現に向けて努力している。	自然豊かな地域の中で、最期までその人らしく暮らせるように「新鮮な空気・太陽の光・暖かさ・清潔さ・静かさを心がける」を理念としている。全職員は、日々のケアや毎日行う申し送りの中で共有し、理念に沿ったケアができるよう、実現に向けて努力している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	管理者や多くのスタッフは、事業所のある地域で暮らしており、地元の住民の皆さんとも自然と交流を続けることができている。外へ散歩に出かけた時は、挨拶や立ち話をする機会もある。	管理者夫妻の地元であり、近隣の職員も多いことから、地域行事へは状況を考慮しながら参加している。住民が介護の相談に立ち寄ったり、ホームの夏祭りには、自治会長が手伝いに来たり、多くの住民や子供達が参加して、賑わいのある祭りとなっている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議や自治会の会合に於いて、ホームの取り組みや生活について説明する機会がある。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に一度、運営推進会議を開催している。その中で積極的に意見交換や近況報告を行い、ケアの質やサービスの向上に活かしている。	運営推進会議の開催は、前回の改善課題となっていたが、全職員で検討し、2ヶ月に1回となり、行政・地域包括支援センター・民生児童委員・自治会長・家族代表等、多くの参加があり、ホーム内の状況説明・活動計画など、ホームからの報告を行っている。	運営推進会議を、サービスの向上に十分に活かせるよう、ホームの役割りと認知症の理解を通し、地域福祉の向上へと繋がるよう、さらなる取り組みに期待したい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市で行っている東部在宅ケア会議に出席し、市の担当者と情報交換をすることができる。	行政と地域包括支援センターは、運営推進会議に参加していることもあり、ホームの活動報告や、困難事例など相談し、協力関係ができています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	日中は玄関の鍵が開いており、いつでも出入りできるようにしている。また、研修を受けたスタッフを中心となり、全員で身体拘束をしないケアの実践に取り組んでいる。	身体拘束の意味や、やむを得ない場合も含め、全職員で研修を行い、拘束はしていない。玄関は開放し、ベランダへの出入りも自由に行えるなど、閉塞感を感じさせないように配慮している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修を受けたスタッフを中心となり、虐待の防止と早期発見をすることができるように努めている。		

岐阜県 グループホーム花咲小町

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	日常生活自立支援事業や成年後見制度を必要とされる方が安心して利用できるように、サポートに努めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	利用者や家族等の不安や疑問を聞くように努め、理解を得られるようにすると共に、書面において重要事項の確認をするようにしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者やご家族が不安や疑問を感じていないかに配慮し、意見交換しやすい環境をつくるように心掛けている。	家族の訪問時や、アンケートで意見・要望を聞き取っている。家族からは、「本人の趣味を活かすこと、幼稚なレクリエーションをしないこと」などの意見があった。意見・提案等は、職員会議で検討し、運営に反映させている。	遠慮がちな家族の気持ちに配慮し、気楽に意見・要望を引出し、互いに理解し合えるような取り組みに期待したい。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月に1度、代表者・管理者と全スタッフが集まり、運営に関する意見交換や改善に向けた話し合いをすることができている。	月に1回、管理者・職員の全体会議で、職員の意見を聞く機会を設けている。利用者の状況改善に繋がることや、職員間の風通しの良い関係づくり等、の意見があった。意見・提案は、改善に向けて全体会議で話し合い、運営に反映させている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は、各スタッフが向上心を持ち、互いに協力し合って明るい環境で働けるように努めている。また、キャリアパス制度の導入により、資格や能力に応じて昇給する等、スタッフのやる気を引き出せるようにしている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	代表者は、スタッフ1人ひとりがさらにスキルアップできるように、それぞれの力量に合わせた研修を受ける機会を積極的につくっている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	研修や講座を通じて知り合った同業者との交流を続け、情報交換や勉強会をすることによって、外部からも良い刺激を受けられるようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人が歩んできた人生や、サービス利用に至るまでの経過を理解し、本人の気持ちを受け止めて見守りながら、信頼関係を築けるように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族の話をよく聴くと共に、こちらからもこまめに連絡をとり、気兼ねなく不安や要望も話していただけるように働きかけている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人と家族等の実情をもとに、今のニーズを見極め、他のサービス利用も視野に入れて柔軟な対応ができるように努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	「介護する側」、「介護される側」という壁を作らず、同じ人間同士として共に楽しく、安心した生活をしていただけるように心掛けている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族の思いを受け止めながら本人との絆をより深めることができるように支援し、スタッフと家族が協力し合える関係を大事にしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人と馴染みの人や友人たちが疎遠になってしまうことなく、交流を続けていくことができるように、気軽に事業所を訪問してもらえ、雰囲気作りをしている。また、手紙や電話でも支援している。	友人や知人達が気軽にホームを訪れている。訪問者には、交流が続くように、雰囲気づくりに努めている。本人の居室でお茶を飲みながら、昔の話や近所の話に花を咲かせている。また、馴染みの店での買い物、外食等、家族と協力し、定期的に出かけている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	1人ひとりの利用者の性格や周囲との関わり方を把握して、孤立やトラブルを防ぐようにしている。利用者同士が共に穏やかに過ごせるように、スタッフが仲介役になる等の配慮をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	本人と家族の状況、これまでの経過や必要な情報を提供し、相談等にも応じながら、サービス終了後も変わらず良好な関係を続けていけるようにしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の話をよく聴き、その人の思いや希望を理解できるようにしている。また、それを実現するためにはどうすれば良いのか、スタッフ全員で話し合って工夫ができるように努めている。	利用者の日々の言葉や仕草を観察し、日常的に拾い上げた利用者の様子を嗜好ノート等に記載し、その内容は職員間で共有している。思いや意向は、ケアに活かせるように、職員間で話し合っている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	生い立ちや家庭環境や職歴も踏まえて1人ひとりの生活史を作成することにより、これまでの暮らしの把握し、そのひとらしい毎日が送れるようにしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	1人ひとりの生活リズムや心身状態を把握すると共に、そのひとにできること・できないことを見極めて、適切なケアを提供できるようにしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ケースカンファレンスやサービス担当者会議において話し合うようにしている。本人のニーズを把握しながら、より良く暮らすための介護計画が作成できるように努めている。	定期的な介護計画の作成は、6ヶ月ごとに、モニタリングは、3ヶ月ごとに行っている。急変時や体調変化時には、随時見直すよう柔軟に行っている。また、その際には、家族やかかりつけ医の意見も聞き取り、利用者本位となるよう、常に配慮している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日の出来事や気付いたことを個別記録に記入し、ケアの実践や本人の様子の変化をスタッフ同士で共有できるようにしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その時の状況やニーズに合わせて、臨機応変にサービスを提供できるように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域資源を有意義に活用しながら、1人ひとりが社会の一員として安全で豊かな暮らしを楽しむことができるように、事業所全体で工夫していく必要があると考えられる。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人と家族の意向を汲み、安心して適切な医療を受けてもらえるように、かかりつけ医との連携を大切にしている。	ほぼ全員が、協力医をかかりつけ医としている。月に2回の協力医の往診を受けている。医療機関への受診は看護師である管理者が同行し、常に医療の情報を把握し、利用者の体調管理を行い、家族へも医療情報を伝えている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	事業所の管理者が看護師であるため、利用者のちょっとした変化や体調についても相談しやすい。1人ひとりが適切な看護が受けられるように支援し、日々の介護においても本人の状態に合わせて柔軟な対応ができるようにしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	利用者が入院した際は、病院関係者にこれまでの既往や本人に必要なケアの情報提供をしている。また、退院後も安心して過ごすための環境整備ができるように、情報交換を行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	本人と家族の思いをしっかりと汲み、事業所全体で方針を共有し、最期までその人らしく穏やかに過ごせるように支援することを心掛けている。当事業所では、かかりつけ医との連携をとりながら、終末期ケアも行っている。	重度化と終末期に関する指針があり、契約時に本人・家族に説明している。重度化に伴い、段階的に、医師などの関係者と話し合い、共有している。看取りは、職員の教育や経験も積んでおり、人の一生の終わりを崇高に見届け、看送るという過程を慎重に行い、看取りに至る本人の経過を自然に受け止め、実践している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時対応マニュアルが作成しており、また、その研修も行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害が起きた時に備え、地域の方も一緒に避難訓練を行うようにしている。1人ひとりの利用者に合わせた誘導の方法をスタッフ全員が身に付けられるようにしている。	年に2回、避難訓練を行い、夜間想定訓練や、時間を計って利用者や外へ避難したりと、様々な取り組みを行っている。避難訓練の際は、自治会長も参加し、地域の協力体制も得られるような関係ができている。また、災害時に備え、飲食料品や薬など必要な物資は備蓄されている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者の1人ひとりの多様な生活文化、価値観を尊重しながら、スタッフの考え方や経験を押し付けない介護・援助をしている。	一人ひとりの生活習慣や価値観を尊重し、誇りを損ねない言葉づかいに配慮している。幼稚語や子ども扱いをしないように支援している。個々の人格を、職員間で共有し、トイレ誘導時や入浴時のみならず、生活全般に対しても、細かい配慮を行っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活の細かな自己決定を優先し、利用者のペースに添った援助を行っている。本人が主体性を持って生活ができるように心掛けている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その人らしい生活習慣を可能な限り尊重し、柔軟な支援ができるようにしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人のこだわりと継続性を大切に、その人好みや意向に応じた支援ができるようにしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	暮らし全体の中でも重要な食事を充実したものにするために、1人ひとりの好みを把握し、見た目も楽しめるように配慮している。利用者も一緒に下ごしらえをしたり、食器を拭く等の片付けをしていただいている。	食事内容は、利用者の好みに合った献立となっている。利用者の体調により、とろみ・刻みなどにも対応し、職員も同じテーブルに付き、見守りながら食事を共に味わっている。野菜の皮むきや下準備を利用者に手伝ってもらい、さりげなく生活リハビリを取り入れている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養の偏りや水分不足が起こらないように、日々の健康状態を把握し、体調や運動量や個々に応じた食生活の支援をしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後だけではなく、定期的な歯科メンテナンスを受けることにより、口腔内の清潔保持ができるようにしている。		

岐阜県 グループホーム花咲小町

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	1人ひとりの排泄パターンを把握すると共に必要な介助を見極め、排泄の自立に向けて支援している。また、ポータブルトイレ等を使用し、本人に合った方法を行っている。	日々の排泄リズムを把握し、耳元でのトイレ誘導などを行い、排泄の自立低下は少ない。入居時にポータブルトイレを使用していた利用者が、職員のこまめな努力によってトイレを使うようになるなど、自立に向けた支援の成果がでている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	1人ひとりの毎日の排便の有無や量を確認し、便秘を予防できるようにしている。便秘がちな利用者に対しては、食物繊維の摂取やこまめな水分補給をしてもらえるように工夫している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	基本的には入浴日が決まっているが、本人の希望に合わせて柔軟に対応している。	入浴は週3回、午後の時間帯としている。本人の希望や体調により、シャワー浴や清拭などにも柔軟に対応している。浴室と脱衣室に1人ずつ職員を配置し、必要な介助に対応することで、入浴がホームで暮らす利用者の楽しみとなるよう、支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	1人ひとりの不安を取り除き、生活環境を整えて、安眠することができるように配慮している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の用法・用量について理解し、飲み忘れや誤薬がないように確認しつつ、本人の状態の変化等にも対応している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	洗濯物をたたむ、花の水やり、日めくりカレンダーをめくる等の役割をもって、意欲的に生活することができるように働きかけている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	散歩に行ったり花見に出かけたりと、外での季節感を味わうことができるように活動している。スタッフが必ず付き添い、安全に気をつけながら利用者の希望に応えられるようにしている。	近所の公園を日常的に散歩している。四季毎に、行楽地へ、テーブルや椅子・飲み物や菓子を持って計画的に出かけ、楽しんでいる。また、普段行けない、帰宅と墓参りには、家族と協力して、願いを実現させている。	

岐阜県 グループホーム花咲小町

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自己管理ができる利用者には、家族の理解のもと、自分でお金を管理していただいている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	手紙や電話は家族や大切な人との関係を繋ぐ重要な手段として、個人のプライバシーに配慮しながら、利用者が自由に電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	五感を活かし、利用者1人ひとりの感覚や価値観を大切にしながら、心が安らぐような雰囲気大切にしている。	広いリビングと食堂を兼ねた開放的な空間のあるホームとなっている。三方の大きな窓からは、田園風景が眺められ、利用者が自由に入ることができるウッドデッキのベランダには椅子が置かれ、職員との洗濯物干しや談笑に役立っている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	1人ひとりの過ごし方の違いを理解し、利用者同士が互いにストレスを感じることがないように配慮している。1人になれるスペースを確保したり、気の合う者同士で過ごせるように、家具の配置を工夫している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者のプライバシーを守りながら、その人らしく落ち着いて過ごすことができるように、馴染みのものや写真を飾ったりする等の工夫をしている。	人のさざめきを感じられるようにと、本人の希望で、居室のドアは開放され、好みに合ったのれんが下げられている。利用者が動き易いように、家具やベッドの配置を工夫している。居室の壁には、家族や孫の写真、本人の作品が飾られ、個性ある居室となっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物内部は、全面がバリアフリーとなっている。手摺りに沿って安全に歩行できるようにしている。また、車椅子の移動でも不便がない広さを確保している。各居室からリビングまでは廊下が直通となっており、場所に迷うことがないように工夫している。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2170102848		
法人名	有限会社 安寿		
事業所名	グループホーム花咲小町(ユニット名:式部)		
所在地	岐阜県岐阜市太郎丸諏訪174番地		
自己評価作成日	平成22年10月12日	評価結果市町村受理日	

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ぎふ福祉サービス利用者センター びーすけっと
所在地	岐阜県各務原市三井北町3丁目7番地 尾関ビル
訪問調査日	

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を 掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求 めていることをよく聴いており、信頼関係ができてい る (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場があ る (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域 の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係 者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理 解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表 情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き生きと働いている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけてい る (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満 足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく 過ごしている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにお おむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟 な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価票(式部)

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	自然環境豊かな立地に恵まれ、太陽の光や新鮮な空気など、利用者にありのままの生活を送っていただけるよう、職員皆心がけている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	散歩や外出時、地域の皆さんと笑顔で挨拶を交わしたり、時には立ち話などをする。また、祭りや防災訓練などにも参加していただいた。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	個人情報を守りながら、グループホームとはどういった所なのか、利用者はどのように生活しているのか、日常会話の中で地域の皆さんに知っていただき、興味をもって理解を深めていただけるように努めている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議で取り上げられた意見や指摘事項をスタッフ全員で共有し、利用者や家族の思いを汲み取り、より良い施設作りのための報告や意見交換の場としている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	常に連絡を密にとって指導していただき、協力関係を築くようにしている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	日中は玄関などに施錠はしておらず、利用者が自由に庭に出て花などを見られるようにしている。職員全員が身体拘束による弊害や、その方の尊厳を心得ており、不穏状態の利用者に拘束せず、そばで見守るようにしている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	管理者の指導のもと、高齢者虐待防止に取り組んでいる。特に、気が付きにくい言葉による暴力について職員同士で話し合う場を持ち、お互いに注意し合い、利用者の変化にも気をつけている。		

岐阜県 グループホーム花咲小町

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在、当ホームで成年後見人制度を利用している方がおられる。管理者による講義で、職員全員が自己決定の大切さや、それができない時の制度の必要性を学び、この制度を必要とされる方が活用できるように支援している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の際、重要事項説明書などで事業所の方針を説明し、納得していただいている。また、事業所で可能なこと、不可能なこと、生活していく上でのリスクについても説明し、納得していただいている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族の来所時、気になることや改善してほしいと思うことはないか職員の方から尋ねたり、利用者にはコミュニケーションの場をより多くもち、そこでの会話から思いや願いを引き出すように支援している。玄関に意見箱を設置している。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	代表者・責任者は毎日出勤しており、職員の意見に柔軟に対処している。また、職員が意見や要望、提案などを言える場を作るようにしている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者・責任者は、職員の意見や要望に柔軟に対処し、働きやすい職場環境を整えている。職員各自が向上心を持って働いている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	年間研修計画にそって、職員のレベルに合わせた勉強ができるように勤務などを調整している。また、勤務中も学んだことを職員同士が教え合い、毎日のケアに生かしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同業者との交流を通してお互いに切磋琢磨し、より良い施設づくりを心がけている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	信頼関係を築くために利用者とのコミュニケーションをより多くとり、思いや不安を受け止めてそばで寄り添い、安心していただけるように努力している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族の話に耳を傾け、困っていることや不安なことは何かを理解し、家族の思いを大事にしながらケアの提供ができるように努力している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人や家族にとって今何が必要かを見極め、他のサービスの利用も視野に入れ、当事業所のできることを速やかに行っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員と利用者1人ひとりが家族のようにあたたかい雰囲気でも過ごし、言葉だけではなく、その人の思いを受け止めることができる関係づくりを目指している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会の際には近況報告をさせていただき、不安に思うことや疑問や希望がある場合には、速やかに対応している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族のご協力を得て、今までの行きつけの美容院やスーパーへ出かけたり、自宅へ帰る機会がある。また、馴染みのものをホームでも使い続けている方もおられる。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	1人ひとりの性格や能力を把握することにより、本人が能力を発揮できる場を作り、利用者同士が助け合って生活している。職員はそれを見守り、支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	亡くなられたり、退所された利用者のご家族とお会いした時にも、気楽に話ができるような良い関係がつけられている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	生活を共にして密な関係ができると、かなり重度の認知症の方の表情や行動でも思いを汲み取ることができるようになり、ケアに生かしている。本人の意向が理解し難い状況でも、職員みんなで最善の方法を話し合い、援助している。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	バックグラウンドシートが作成しており、それをもとに昔のことを回想し、その方の歩いて来られた人生や思いをより深く聞いて把握し、1人ひとりに合ったケアができるように努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	職員が常にそばで見守り、心身状態や1日の過ごし方などを把握している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	定期的に行われるケアカンファレンスで出たニーズをもとに介護計画を作成し、チームで統一されたケアに取り組んでいる。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	利用者1人ひとりに個別ファイルが作成されており、身体状況や健康管理および日々の暮らしぶりが記録されている。職員みんなで情報を共有し、ケアの見直しや評価に活用している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	家族の負担を軽減するため、受診の際には付き添ったり買い物をしている。また、1人ひとりの健康状態や疾患に合わせて食事の提供をしている。		

岐阜県 グループホーム花咲小町

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	1人ひとりが豊かな暮らしができるように、地域の方やボランティアの方の力を借り、地域資源を利用している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力医療機関の医師による継続的な健康管理をしている。状況により、本人や家族の希望する医療機関に受診できるように支援している。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	早い段階での状態の変化の気付きは重要であり、看護師との連絡や情報交換を密にしている。また、24時間連絡がとれるように体制が整っており、利用者も職員も安心して暮らせる。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	利用者の入院時には、必ず看護師が付き添い、必要な情報提供をしている。入院中も家族との連絡を密にとり、状態の把握に努めている。早期退院に向けて、関係者との話し合いを行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	本人や家族の意向を重視し、医療機関や家族の協力のもと、状態の変化をそのつど確認しながら、そのひとらしく最期まで生き抜くことができるように援助している。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急対応マニュアルが作成されており、それに基づいて勉強会をしている。看護師とも連絡体制が整っているため、速やかに適切な指示をしてもらえる。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	地域の方にも出席していただき、避難訓練を行っている。また、避難経路や消火器の設置場所と使用方法などを職員同士で確認するようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	その人の人生や人権や生き方などを否定するような会話と態度をしていないか、職員同士で注意したり、本人の思いを引き出して共感できる接し方をするように努力している。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	コミュニケーションの場をより多く持ち、本人の気持ちを引き出す言葉かけをしたり、その人の表情から思いを読み取ることができる関係づくりのために努力している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的な1日の生活パターンはあるが、1人ひとりのペースで生活できるようにしている。職員がそばで見守り、本人の好きなことやできることを続けていただけるように支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人に尋ねながら、職員も一緒に着替えの準備や洗面、整髪などを行っている。自分でやれることはやっていただき、そばで見守りながら声かけや援助をしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	キッチンの前にメニューを貼りだして食事を楽しくしていただいている。食べたい物の希望を聞いたり、旬の物を取り入れるようにしている。野菜のすじとりや皮むきなどの準備を利用者と職員が一緒に行っている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養バランスを考え、一人ひとりの好みや体調、嚥下状態を把握するようにしている。その方に合った食事形態を職員で話し合い、スピーディーに対応している。水分制限や脱水にも注意している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食生活を楽しむためにも歯は重要であり、誤嚥性肺炎の予防という点からも、毎食後の口腔ケアを欠かさないようにしている。歯科衛生士の指導のもと、1人ひとりに合ったケアを行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	1人ひとりの排泄パターンを把握してトイレ誘導を行っている。また、その時の行動で排泄したいかどうかのサインがわかるような関係を作る努力をしている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	自然排便を促すため、食物繊維の多い食品や海藻、乳製品などをバランスよくメニューに取り入れている。適度な水分補給や運動をしていただけるように支援している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	基本的には週3回の入浴日は決めてあるが、本人の希望や体調に合わせて柔軟に対応している。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	1人ひとりの生活パターンを把握し、必要な睡眠や休息がとれるように居室などを整備し、安心して休むことができる環境作りに努めている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	誤薬や飲み忘れを防ぐため、食後に職員がしっかり確認するようにしている。薬が変わった時などは、本人の状態の変化に留意して看護師との連絡を密にとり、早期対応ができるように努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	テーブル拭きなどの簡単な仕事、趣味や得意としていることを毎日していただけるように支援している。要介護度の軽い方が、要介護度の重い方の手助けをしてくださることもある。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	毎日、気分転換をしたり社会性を保つため、散歩に出かけて地域の方々と会話などを行っている。また、家族に協力していただき、食事や買い物に行けるように支援している。利用者の皆さんと職員で、喫茶店に出かけてモーニングを楽しむこともある。		

岐阜県 グループホーム花咲小町

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	家族の理解を得て、自分でお金の管理をしている方がいる。ひ孫さんたちにお小遣いをあげたり、職員にちょっとした買い物を頼まれることもある。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話は、本人より申し出があった時にいつでも使用できるようにしている。はがきや手紙も自由に書いていただき、職員がポストに入れるお手伝いもしている。暑中見舞いや年賀状に写真を使い、家族などに近況をお伝えできるように支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節や天気に合わせて心地よく利用者が過ごせるよう、窓やカーテンや照明などを調節している。危険箇所や障害物がないように配慮している。花や散歩で摘んできた草花を玄関やリビングに飾り、季節を感じていただけるように工夫している。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングの中では1人ひとりの気に入った場所があり、いつも所定の場所で過ごされていることが多い。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家族と相談しながら、本人が気に入っている物や自宅で使用していた物などを持って来ていただき、自然に落ち着くことができる工夫をしている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	補助具などを1人ひとりの状態に合わせて使用していただき、職員がそばで寄り添い見守るようにしている。建物内部は、職員の目が届く構造になっている。		